トヤマエビの種苗をつくる

研究分野

水産資源を増やす

ねらい

- トヤマエビは、北海道近海や日本海の水深 100～400mの泥底に生息する深海性のエビで、通称ボタンエビと呼ばれており、体長 20cm に達する大型のエビです。
- 富山県におけるトヤマエビ漁獲量は、最近では年間 10 トン前後で、昭和 37,38 年の 2 年間で 150 トンの漁獲があったのと比較すると激減しています。そのため、トヤマエビの放流によって漁獲量の増大を図ることが望まれています。富山県水産試験場では、放流するエビを確保するため、平成 7 年から種苗生産*1 の研究を開始しました。
- トヤマエビの雌エビは、腹部に抱卵した卵から幼生がふ出した後、卵巣が成熟し 2 年後に再び幼生をふ出する性質があります。そこで、一度種苗生産に使用した雌エビの再利用に関する研究も行いました。

成　　果

- 種苗生産に用いる餌は、アルテミア*2 と配合飼料*3 です。ふ出した幼生（全長約 5mm）にこれらを与え、約 2 ヶ月間飼育すると全長は約 25mm に成長し、その後、配合飼料のみを与え 1 年間継続飼育すると全長は約 80mm に成長することがわかりました。
- 飼育開始時の幼生収容密度を 20,000 尾／m^3 程度に設定すれば、2 ヶ月後の生残率は 60%以上となることもわかりました。
- 一度､種苗生産に使用した雌エビから再度ふ出される幼生は支障なく飼育できることが示唆されました。

活　　用

- 本事業は、平成 16 年度に終了しましたが、これまでに多くの生態学的知見や飼育技術が開発されました。これらは、今後、他の深海性甲殻類の生態研究へ応用が可能です。

トヤマエビ雌エビ

卵からふ出した幼生

*1 種苗生産

一般に、養殖や放流に使用する魚介類の仔稚を種苗といい、それらを人の手で育てることをいいます。

*2 アルテミア

熱帯魚の飼育にも使用される甲殻類で英名をブラインシュリンプといいます。

*3 配合飼料

魚粉等を主成分に栄養価を考慮して、人工的に作られた粉状や粒状の餌のことです。

研究実施期間　平成 7 年度～平成 16 年度

問い合わせ先　富山県水産試験場（076-475-0036）